

平成25年度農山漁村男女共同参画優良活動表彰 受賞者について

平成25年度農山漁村男女共同参画優良活動表彰の受賞個人・団体が決定しましたので、お知らせします。なお、表彰式は、各部門とも『第27回農山漁村女性の日記念の集い』の中で行われます。

〈平成25年度農山漁村男女共同参画優良活動表彰〉

1. 目的

農山漁村において女性は、農業就業人口の過半を占めているとともに、起業活動等により、地域において活躍している。しかしながら、農業委員や農協役員等に占める女性の割合は低く、地域の指導的立場への女性の登用は進んでいない。

政府として、「2020年までに指導的地位に女性が占める割合を少なくとも30%程度」とすることを目指しており、他分野に比べ遅れている農山漁村において、女性の登用を進めることが急務である。

このため、次世代を担う地域リーダーとなることが見込まれている若手女性及び女性の参画を積極的に推進している組織等を表彰することにより、農山漁村における男女共同参画の取組の推進に資するものとする。

2. 受賞個人・集団

I. 次世代を担う若手地域リーダー部門

農林水産大臣賞

① 経営参画部門

・岐阜県 高山市 寺田 真由美

② 地域参画部門

・福岡県 筑紫野市 三宅 静恵

農林水産副大臣賞

① 経営参画部門

・青森県 青森市 川村 美紀
・岩手県 奥州市 高野 寛子

② 地域参画部門

・長野県 天龍村 熊谷 美沙子
・鹿児島県 鹿児島市 右田 広美

農林水産大臣政務官賞

① 経営参画部門

・埼玉県 入間市 貫井 香織
・佐賀県 神埼市 香月 涼子

② 地域参画部門

・千葉県 市原市 苅米 眞弓
・富山県 高岡市 大坪 順子

II. 組織における女性登用部門

農林水産大臣賞

・宮城県 大崎市 大崎市農業委員会
・栃木県 宇都宮市 栃木県農村女性会議

農林水産副大臣賞

・栃木県 宇都宮市 相場 カツ子
・静岡県 沼津市 南駿農業協同組合

農林水産大臣政務官賞

・岐阜県 瑞穂市 瑞穂市農業委員会
・広島県 庄原市 道下 和子

【表彰式等（農山漁村男女共同参画優良活動表彰）】

日時 平成26年3月6日（木）（『第27回農山漁村女性の日記念の集い』のプログラムの中で）

表彰式 10:30～11:10

（*農山漁村女性・シニア活動表彰の表彰式を同時に実施予定。）

活動報告（農山漁村男女共同参画優良活動表彰） 11:20～12:00

活動報告（農山漁村女性・シニア活動表彰） 13:20～14:20

場所 台東区立浅草公会堂（東京都台東区浅草1-38-6 電話：03-3844-7491）

【主催等】

主催 農山漁村男女共同参画推進協議会

後援 農林水産省

協力 全国酪農青年女性会議

問い合わせ先

農山漁村男女共同参画推進協議会

事務局

（一社）農山漁村女性・生活活動支援協会内
東京都港区芝公園2-6-8 日本女子会館4階

担当：森、石井

電話：03-5777-5383

平成25年度 農山漁村男女共同参画優良活動表彰 受賞者一覧

I. 次世代を担う地域リーダー部門 ①経営参画部門

賞の名称	都道府県名	受賞者氏名	概要
農林水産大臣賞	岐阜県	<small>テラダ</small> 寺田 <small>マユミ</small> 真由美	平成11年、結婚を機に就農。平成18年に夫婦で認定農業者となる。農家の後継者でない若者の研修受入により、本気で農業をやりたい人と一緒に新しい農業スタイルを作りたいと、平成22年に「株式会社 寺田農園」を設立、代表取締役となる。同年、加工所を建設。自社生産のトマトをジュースやピューレ、ドライトマト等に加工し、ネーミング・パッケージにも配慮して販売するなど、地域内でも先駆的に6次産業化に取り組むとともに、女性の感性を活かした「自分らしい新しい農業スタイル」を実践している。
農林水産副大臣賞	青森県	<small>カワムラ</small> 川村 <small>ミキ</small> 美紀	平成14年に結婚を機に就農。家族で観光りんご園を運営しながら、新規部門として夫婦で花き栽培を開始。就農2年目には直売活動をスタートさせ、その後、スーパーのインショップでの販売やレストランへの食材供給、イベント出展と販路を拡大させている。また、果物や野菜の加工にも取り組み、商品数を増やすとともに、平成25年に観光りんご園での収穫体験を発展させた「体験カフェ」を開設。夫や義父母と子育てや家事を協力し合いながら販路拡大等に取り組んできた結果、販売収入も増加している。さらに、研修生や新規就農者の育成にも貢献している。
農林水産副大臣賞	岩手県	<small>タカノ</small> 高野 <small>ヒロコ</small> 寛子	農業を職業にしたいとの思いから岩手県立農業大学校に進学し、平成13年に就農。その翌年に結婚し、嫁ぎ先の大規模りんご園で仕事と子育てを両立してきた。平成23年に「アグリフロンティアスクール」を受講し、自分自身も経営者として取り組もうと決意。平成24年、夫とともに認定農業者となり、また、岩手県青年農業士に認定される。農業高校の生徒などの農業体験の受入、農業大学校での講演などの活動も行い、さらにJA江刺りんごアップルレディースに参加してりんごの販売促進活動を行っている。
農林水産大臣政務官賞	埼玉県	<small>ヌカイ</small> 貫井 <small>カオリ</small> 香織	採用コンサルティング会社、PR会社を経て、平成20年に父が経営する(有)貫井園に就農、24年に取締役就任。貫井園として、世界へと販路を広げ、経営拡大を実現していくため、視点を変えて加工販売と海外輸出を含めた販路拡大に取り組む。商品開発は、ターゲット、販路、商品イメージを提案し、これを具体化できる企業と協同で行い、これまでに自家製しいたけパウダーやしいたけココア、しいたけミルクジャム等を開発。また、スーパーやレストラン等への販路を拡大するとともに、自社生産の茶をパリの食料品店で販売開始。
農林水産大臣政務官賞	佐賀県	<small>カンキ</small> 香月 <small>リョウコ</small> 涼子	平成12年、夫とともに就農。就農にあたり、義父から経営を移譲され、イチゴ部門を涼子氏夫婦、経理全般を涼子氏が受け持つ。平成22年、夫婦で認定農業者となる。いちご部会千代田支部の若手9戸で「いちご会」を作り、毎月自主勉強会を開催。また、生産した農産物を無駄にしたいくないという思いからイチゴの加工に取り組み、「さがほのかいちごチップス」を商品化したほか、イチゴソース等の開発にも取り組む。フレッシュミズの地区代表及び県の代表を歴任。

I. 次世代を担う地域リーダー部門 ②地域参画部門

賞の名称	都道府県名	受賞者氏名	概要
農林水産大臣賞	福岡県	ミヤケ シズエ 三宅 静恵	平成8年、両親の経営する三宅牧場に転職し、出産を機に退職。平成14年に加工所「まきば」を立ち上げ、三宅牧場のもち米を使って餅加工を始める。平成18年に直営店を併設した加工所をオープン。平成19年に「合同会社三宅牧場まきば」として法人化。加工所では三宅牧場の米などを使った餅、はかた地どりおにぎり、ポン菓子等を製造し、直営店やネットショップ、JA直売所、地元量販店等で販売。また、子育て世代の女性を積極的に雇用し、就業時間の工夫等により従業員が働きやすい職場環境を整えている。
農林水産副大臣賞	長野県	クマガイ ミサコ 熊谷 美沙子	林業の先行きが不安となり、平成12年に「山の宿 加満屋」(林家民宿)を開業。平成16年、農村生活マイスターに認定。同年、「南信州グリーンツーリズムネットワーク この指とまれつながり逢いの会」を発足し、副代表に就任。また、南信州茶のブランド化と、手揉み技術の保存・伝承、品質向上を目的に「南信州茶手揉み保存会」を立ち上げ、小学校での茶摘み・手揉み体験や手揉み茶の実演・販売等を行っている。さらに、単身で学童クラブを立ち上げ、農作業や校外学習を取り入れた活動も行っている。
農林水産副大臣賞	鹿児島県	ミギタ ヒロミ 右田 広美	平成5年頃から父の漁を手伝う。資材の調達を工夫して経費の削減に努めたり、価格の安い時期に魚の開きを作り漁業収入を補完した。小型船舶操縦士の免許を取得したことを機に、遊漁船業や工事作業の資格も取得し、漁協の正組合員となった。父が亡くなったあとは、父のヒラメ網を使って漁獲をあげるなど実績をつみ、手助けがあれば一人でもやっていけるとの自信につながった。さらには女性にはできないといわれる監視船業務にも同行している。
農林水産大臣 政務官賞	千葉県	カリコメ マ ユミ 苅米 眞弓	平成6年実家の農業を手伝い、平成10年観光みかん園に嫁ぐ。義母と一緒に農産物加工を担い、若手女性の視点をプラスした加工品の開発、販売に取り組む。加工品のアイテム数は増え、現在は50種類に及ぶ。効率よく健康的に働くための加工機械の導入などについて提案、実践。「次世代ヒロインセミナー」に参加し、研修終了後も若手女性の組織化に向けて牽引役となり、平成22年「いーやんばい」を発足し、初代会長となる。組織化を通じて若手女性農業者の交流や技術向上が進む。
農林水産大臣 政務官賞	富山県	オオツボ ジュンコ 大坪 順子	平成18年、結婚とともに就農。転作の水田20aで野菜作りを開始、少量多品目を目指す。西洋野菜がイタリアンレストランのシェフに購入されるようになり、さらにレストラン、ワインバー、パン屋等に販路を拡大する。大きな転機は、平成23年に農家カフェ「Jun Blend Kitchen」をオープンした事。カフェでは原材料にこだわった料理を提供しており、人気メニューの提供で好評を得ている。JA高岡の「フレッシュミセス」部長を務めるとともに、6次産業化を目指す農業者を対象とした研修講師としても活躍。地域の若手農業者で「JB会」を発足させ、他産業に従事している若者も加わり幅広い交流をしている。

II. 組織における女性登用部門

順位	賞の名称	都道府県名	都道府県等の推薦者	受賞者氏名 受賞組織名	組織の種類	備考
	農林水産大臣賞	宮城県	宮城県 農業会議	オオサキシ ノウギョウ インカイ 大崎市農業委員会	農業委員会	大崎市農業委員50名中、女性委員が6名で女性の登用率は12%。毎年管内9選挙区から2人ずつ、「一日女性農業委員」に任命する「一日女性農業委員会」を年2回開催し、女性の市農業施策から市政へと視野を広げるきっかけとなっている。家族経営協定の促進についても農業委員会をあげて協定締結に取り組んでいる。また、女性農業者ネットワークの構築を進め、親身な相談活動を行う姿勢を共有している。女性農業委員が編集委員の一員となり、「大崎市農業委員会だより」を発行している。平成26年7月の農業委員任期満了に向けて、市長・市議会議長に対し選任委員への女性登用について引き続き、積極的に働きかけを行う予定にしている。
	農林水産大臣賞	栃木県	栃木県	トチギケン ノウソン ジョセイ カイギ 栃木県農村女性会議	女性組織	県域の各農村女性団体と各地区農村女性会議で構成され、18年にわたり活動を行ってきた。県が策定した「とちぎの農村女性ビジョン」これに続く「とちぎ農業・農村男女共同参画ビジョン」の推進母体として栃木県の女性農業者の育成や男女共同参画の着実な推進に貢献してきた。特に女性の社会参画の促進については、同組織が全県下で登用活動を展開し、第21回農業委員統一選挙において、県内全市町の農業委員会に女性の農業委員を誕生させ、全国一位の実績を納めた。併せて平成23年度に県内全JAに女性理事を誕生させた。県各市町農業委員675名の内、77名が女性(11.4%)、県内各理事311名の内、22名が女性(7.1%)。
	農林水産副大臣賞	栃木県	栃木県 農業会議	アイバ コ 相場 カツ子	農業委員会、生活 研究グループ、J A女性部、女性農 業委員会組織	平成14年から現在まで宇都宮市農業委員を務め、4期目となる。当初、議会推薦の選任委員として1期、2期目以降は公選委員として就任。また、とちぎ女性農業委員の会(栃木県女性農業委員組織)の会長を務めるなど女性の社会参画を推進している。毎月定期的に女性農業委員独自の会合を持つなど、女性農業委員の中心的な役割を担っている。特に毎年、農業版の婚活である「ろまんちっくツアー」を先導する役割を担い、地域の農業後継者育成に貢献している。
	農林水産副大臣賞	静岡県	静岡県農業 協同組合中 央会	ナン スン ノウギョウ キョウドウ クミアイ 南駿農業協同組合	農業協同組合	JA運営における女性参画の目標である「①正組合員における女性の割合25%以上」「②総代における女性の割合を10%以上」「③女性理事を2名以上」をいずれも達成している。当JAでは各地区に運営委員会を設置し、地区の組合員との密接な連絡協調をはかり、組合に対する理解・協力を高めることに貢献している。この運営委員会活動に女性の意見を反映させるため、平成20年2月、運営委員に女性枠を設けた。女性理事は通常業務に加え、業務部門ごとに設定された役割を担っている。
	農林水産大臣政務官 賞	岐阜県	岐阜県	ミズホシ ノウギョウ インカイ 瑞穂市農業委員会	農業委員会	同農業委員会では、平成23、24年の女性農業委員の活動を「農業者年金の加入促進活動」と定め、現職の女性農業委員の活動を促進している。さらに平成25年4月に農業委員の改選期を控え、市議会全員協議会の場において女性農業委員の登用について理解を求めた事により、7名の選任候補者の内4名の女性全員が選任委員となった。同農業委員会では、現職の農業委員の中では最も長い任期となっているのが女性農業委員(5期目12年目)。
	農林水産大臣政務官 賞	広島県	広島県農業 会議	ミチシタ カズコ 道下 和子	農業委員会	庄原市農業委員の代表として、女性農業委員の活動の幅を広げたほかに、特に女性委員の登用に積極的に取り組み、平成23年度の改選期には会長とともに女性委員の登用に努力した。自身も公選の候補として取り組み、その結果女性農業委員が7名となり、大きな成果を得た。また、広島県女性農業委員の会の会長や、全国女性農業委員ネットワーク理事などの職も務める。